

アークフラッシュ施工された老人施設 7年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> **アークフラッシュNEWS をダウンロードによりご覧頂きます**

インドネシア保健省は5日、ジャカルタ西郊のタンゲランに住む女性(30)が鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)に感染し、死亡したと明らかにした。同国の感染死者は世界最多を更新し続けており、90人目。女性は鶏の死骸(しがい)に触れた形跡があるという

広島市は12日、市立福木小学校(大塚徳校長、775人)の2年生1クラスで集団風邪が発生し13、14日の2日間を学級閉鎖にすると発表した。市内では今シーズン初の発生で、昨年より3カ月早い。県内では2校目。1クラス26人中20人が発熱や頭痛などを訴え、14人が欠席。全校では63人が症状を訴えている。インフルエンザかどうかは調査中

英政府衛生当局は12日、同国南部のサフォーク州の農場で七面鳥からH型鳥インフルエンザのウイルス感染が確認され、約5000羽を処分すると発表した。この農場で飼育されているアヒル、ガチョウもすべて処分する方針だ。クリスマス料理に使われる七面鳥の販売価格が上昇する恐れがあると英メディアは伝えている。

山梨県健康増進課は12日、甲府市立中道北小の5年生がインフルエンザとみられる集団風邪となり、同校が13日から3日間、学年閉鎖の措置を取ると発表した。今年度に入って集団風邪は、今月9日に同校4年生で初めて発生しており、12日まで学年閉鎖の措置を取っている。同校5年生は12日現在で38人中15人が欠席し、医療機関の簡易判定で一部がインフルエンザと確認。登校した児童3人にも発熱やせきの症状があるという。同課は「手洗いやうがいの徹底など注意が必要」としている。

県健康対策課は12日、和歌山市立安原小学校と雑賀小学校でインフルエンザの集団発生があり、それぞれ2年生の1クラスが13日から3日間、学級閉鎖されると発表した。県内での集団発生は今シーズン初めてで、過去10年間で最も早いという。同課によると、県内50医療機関からのインフルエンザ患者の報告は先月下旬から増え始め、今月4日までに累計59人に。このうち55人が和歌山市、4人が岩出市で受診しており、県北部で流行の兆しがみられるという

インドネシア保健省は10日、同国スマトラ島リアウ州に住む男性(31)が鳥インフルエンザにより死亡したと発表した。これで同国の鳥インフルエンザによる死者数は91人となった。保健省のスポークスマンが電話のテキストメッセージで明らかにしたところによると、感染した鶏との接触が鳥インフルエンザの感染経路として最も一般的とされるが、6日に死亡したこの男性に鶏との接触があったかどうかは現時点で不明という。また、同省の鳥インフルエンザ担当局の別の担当者は、この男性は、せきや発熱、呼吸困難の症状がみられ、地元の病院から州都の病院へ転送される途中で死亡したと述べた。

全国的にインフルエンザの患者数が増加していることが国立感染症研究所のまとめで分かった。10月下旬に全国の定点医療機関から報告された患者数は、同時期としては過去10年で最多。早くも12月並みの水準になっており、同研究所などは「今年は流行のスタートが早い」と注意を呼びかけている。同研究所の感染症発生動向調査によると、10月22～28日の1週間で報告のあったインフルエンザ患者数は、過去10年で最多となる1医療機関当たり0.2人。同29日～今月4日の1週間も0.26人と上昇している。大阪府内では10月18日に大阪市西淀川区の民間保育所の園児から、府内における今シーズン初のインフルエンザを検出。府感染症情報センターの調査によると、今月10日までに府内のインフルエンザによる学級・学年閉鎖は、大阪市北区や泉南市などの4校・園で実施された。岡山県では今月5～11日の1医療機関当たりの患者数は0.65人。昨年同時期の報告はゼロだった。同県では10月16日に、岡山市立東(ひがし)畦(うね)小学校で3年生1クラスが学級閉鎖となったのを皮切りに、同市や倉敷市を中心に、これまで延べ6校・園が学級・学年閉鎖に追い込まれている。同県健康対策課は「例年に比べ、流行のはじまりが早い。急に寒くなれば、さらに患者が増える恐れもある。規則正しい日常生活を送り、ウイルスへの抵抗をつけるとともに、インフルエンザワクチンも活用してほしい」と語った。一方、沖縄県は様相が異なる。同県では5年ほど前から、冬に加えて夏場にもインフルエンザが流行している。同県健康増進課によると、今年7月9～15日の1医療機関当たりの患者数は13.5人で、同県が定める注意報レベルを超えた。9、10月も高い水準で流行が続いたという。今月に入ってから、1医療機関あたりの患者数は全都道府県で最多となっている。

風邪の症状を引き起こすアデノウイルスが変化した変異型のウイルスによって、過去1年半の間に米国で10人が亡くなったことが、米疾病対策センター(CDC)の調査でわかった。CDCは、感染拡大の危険性があるとして各州の公衆衛生担当者などに注意を呼びかけた。CDCによると、変異型のアデノウイルスは昨年5月、ニューヨーク州で生まれた新生児で初めて見つかった。新生児は脱水症状を起こし、食欲をなくして生後12日で死亡した。オレゴン、ワシントン、テキサスの各州でも合わせて少なくとも約140人が感染したことが確認された。アデノウイルスに対しては現在、効果的な治療法はなく

安静にするなどの処置が通常行われている。どのような遺伝子変異によって、症状の悪化につながっているかはまだ分かっていないという

茨城県保健福祉部は16日、小美玉市栗又四ヶの介護老人保健施設「サン・テレーズ」(小林博雄理事長)の職員とその家族が結核に集団感染したと発表した。発病者は3人、感染者は10人に上る。同部によると、施設に勤める50代の男性職員は6月に結核を発病。土浦と水戸の保健所が男性職員の家族と施設職員らの健康診断をしたところ、今月10日までに家族の20代男性と30代女性職員が発病し、20~40代の男女計10人の感染が分かった

東京都教育庁は16日、都立光丘高校(練馬区)で、2、3年の生徒2人がはしかに感染、感染の疑いがある生徒が9人いると発表。両学年を16日から26日まで閉鎖することを決めた。2人は予防接種を受けていなかったという。同校では1年生もはしかの集団発生で、12日から18日まで学年閉鎖している。

埼玉県川越市保健所は16日、食肉加工業者「カルネポーナ」(本社・大阪市浪速区、奥村哲雄社長)の加工所(川越市新宿)が加工したイタリア産の「パルマ産生ハム」から、食中毒を起こすリステリア菌が検出されたとして、製品の回収と販売禁止を命じた。保健所によると、対象は10月13~23日に加工した製品。別の業者が輸入した豚肉を買い付け、スライスしている。製品は、首都圏、大阪府、長野県に約700キロが出荷された。

<< 編集後記 >>

今回はウイルス、バクテリアの感染情報が主になってしまいました。

関係各位の皆様もインフルエンザの予防にお努めください。

次回は施工実績主体の現在工事中物件のご紹介をいたします。

*** 発行責任者 株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.com

過去のアークフラッシュNEWSはホームページよりご覧になれます。